

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：鈴木 克宗

事業名	ひだか 日高自動車道（一般国道235号） あつがしずない 厚賀静内道路		事業 区分	一般国道	事業 主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道沙流郡門別町字美原 至：北海道静内郡静内町中野				延長	15.0 km
事業概要	日高自動車道は、北海道縦貫自動車道苫小牧東ICから分岐し、浦河に至る延長約120kmの一般国道の自動車専用道路で、北海道縦貫自動車道と一体となって高速交通ネットワークを形成する路線である。このうち、厚賀静内道路は、日高自動車道の一部を形成する厚賀ICから静内ICに至る延長15kmの区間で、物流の効率化や災害時の代替路確保等を目的としている。					
H7年度事業化	H - 年度都市計画決定		H - 年度用地着手		H - 年度工事着手	
全体事業費	約482億円		事業進捗率	2%	供用済延長	- km
計画交通量	14,000台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	4.1	総費用 (残事業/事業全体)	410 / 410億円	総便益 (残事業/事業全体)	1,690 / 1,690億円
	(残事業)	4.1	事業費	376/376億円	走行時間短縮便益	1547/1547億円
			維持管理費	34/34億円	走行費用減少便益	106/106億円
					交通事故減少便益	38/38億円
基準年	平成17年					
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施					
	交通量変動：B/C=4.5 (交通量+10%)		B/C=3.7 (交通量-10%)			
	事業費変動：B/C=3.8 (事業費+10%)		B/C=4.5 (事業費-10%)			
	事業期間変動：B/C=4.0 (事業期間+20%)		B/C=4.3 (事業期間-20%)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土・地域ネットワークの構築（拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する。隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する）</li> <li>物流効率化の支援（大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる）</li> <li>災害への備え（緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する）</li> <li>安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）</li> </ul> 他9項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	厚賀静内道路は、救急患者の搬送時間の短縮、災害時の避難・代替路の確保、札幌圏や空港アクセス等の物流拠点と高速交通アクセスによる物流効率化や地域資源を生かした観光施策の推進を図るため、苫小牧市をはじめとする関係1市15町の首長で構成される高規格幹線道路日高自動車道早期建設促進期成会他より、整備促進の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	日高自動車道は、平成10年に苫小牧東IC～厚賀IC間20km、平成15年度に厚賀IC～鶴川IC間8.6kmを供用している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成7年度に事業化し、調査・設計および地域住民との合意形成を円滑に進めるためのPI等を進めている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	引き続き事業が順調に進んだ場合、平成20年代後半の事業完了を予定している。					
施設の構造や工法の変更等	設計手法（縦断・平面線形）の見直し等によるコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	<p>厚賀静内道路 L=15km</p> <p>自：北海道沙流郡門別町字美原 至：北海道静内郡静内町中野</p> <p>門別町 厚賀IC(仮称) 新冠町 新冠IC(仮称) 静内町 静内IC(仮称)</p> <p>至苫小牧 JR日高本線 前線IC(仮称) 新冠IC(仮称) 静内IC(仮称) 至浦河</p> <p>太平洋</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>供用中</li> <li>事業中</li> <li>再評価箇所</li> <li>うち供用中</li> <li>調査中</li> </ul>					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。